

令和4年度 災害復旧事業における工事事故事例

【発生日時】

令和4年5月21日 8:15頃

【工事概要】

施工延長1,059m、河道掘削51,186m³、築堤盛土2,018m³、舗装工1,885m²

【事故内容】（被災状況・被災者数）

残土運搬中に、10tダンプトラックが、電柱及び家屋に衝突。

家屋損壊（空き家）1戸、電柱倒壊4本、停電1,500世帯、道路路肩側溝損壊

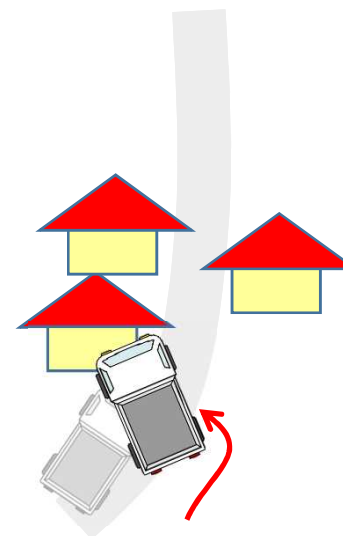
【事故原因】

ダンプトラック運転手の体調不良によるハンドル誤操作

【再発防止策】

- ①現場作業員の体調管理チェックシートを活用し、元請業者が運搬業者等を含む全ての作業員に対して、体調の把握を行うことで、事故を未然に防ぐ。
- ②事故発生から発注者への報告までに時間を要したことから、事故発生時における連絡体制の社内周知の徹底を図り、迅速な現場状況確認及び報告を行う。

【事故状況】



令和4年度 災害復旧事業における工事事故事例

【発生日時】

令和4年6月27日 14:30頃

【工事概要】

工事延長 L = 45.0 m
吹付法枠 L = 1,397 m
鉄筋挿入工 N = 91 本
仮設防護柵工 N = 1 式

【事故内容】（被災状況・被災者数）

バックホウ（クレーン仕様2.9t吊り）により大型土のうの移動作業を行っていたところ、アームが道路上空にあるNTT通信線（光ケーブル）に接触し破損した。

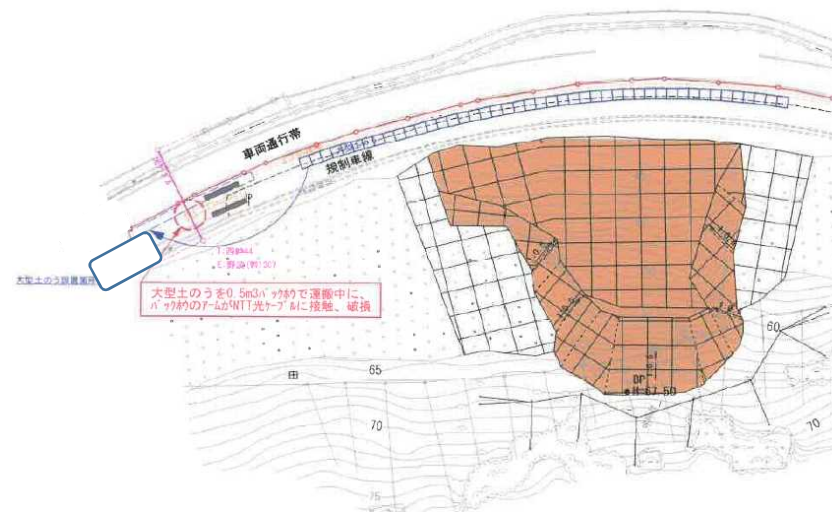
【事故原因】

バックホウ自走による大型土のう移動中に、仮設防護柵と規制標識による幅員狭小区間を通過の際、上空の架空線への注意が疎かになった。

【再発防止策】

- ・ 架空線の位置や高さが、作業中に誰もが認識できるように、架空線への三角旗と注意看板を設置する
- ・ 作業手順、作業計画、危険箇所について再度、安全訓練を実施する
- ・ 作業開始前に、関係作業員に作業計画を周知徹底する

【事故状況】



令和4年度 災害復旧事業における工事事故事例

【発生日時】

令和4年8月3日 14:10頃

【工事概要】

施工延長1,059m、河道掘削51,186m³、築堤盛土2,018m³、舗装工1,885m²

【事故内容】（被災状況・被災者数）

路盤施工中に、4tコンバインドローラーを移動させていたところ、川側に滑り落ち、その反動で運転手が放り出され、コンバインドローラーの下敷きとなった。

1名（運転手）：死亡

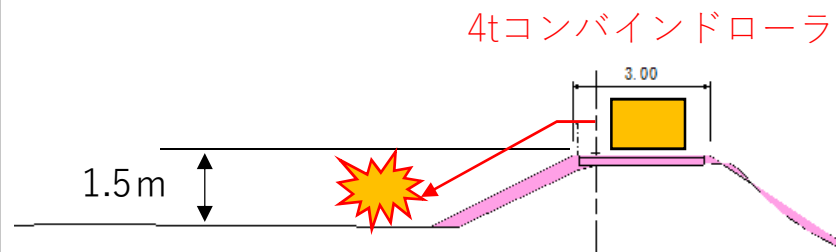
【事故原因】

- ①無資格者による締固め用機械の運転
- ②運転操作ミスによる転落

【再発防止策】

- ①無資格者による運転を防止するため、「作業員名簿」及び「資格証の写し」での資格有無の確認徹底、「作業計画書」に基づき、作業形態の確認を行った上で現場作業を行う
- ②運転操作ミスによる転落を防ぐため、路肩の明示を行うとともに、路肩50cm以内は搭乗式振動ローラーを立入禁止とする。また、重機の作業時だけでなく、移動中も誘導員の配置を行い、重機オペレータは、重機を離れる際には、鍵を抜くことを徹底し、現場作業を行う。

【事故状況】



令和4年度 災害復旧事業における工事事故事例

【発生日時】

令和4年9月22日 9:40頃

【工事概要】

施工延長 L=300m
コンクリートブロック張工 A=4,375m²
盛土工 V=17,300m³
樋管工 1箇所

【事故内容】

- ・ 高圧電力線の切断
- ・ 負傷者なし
- ・ 近隣地区約40軒が停電

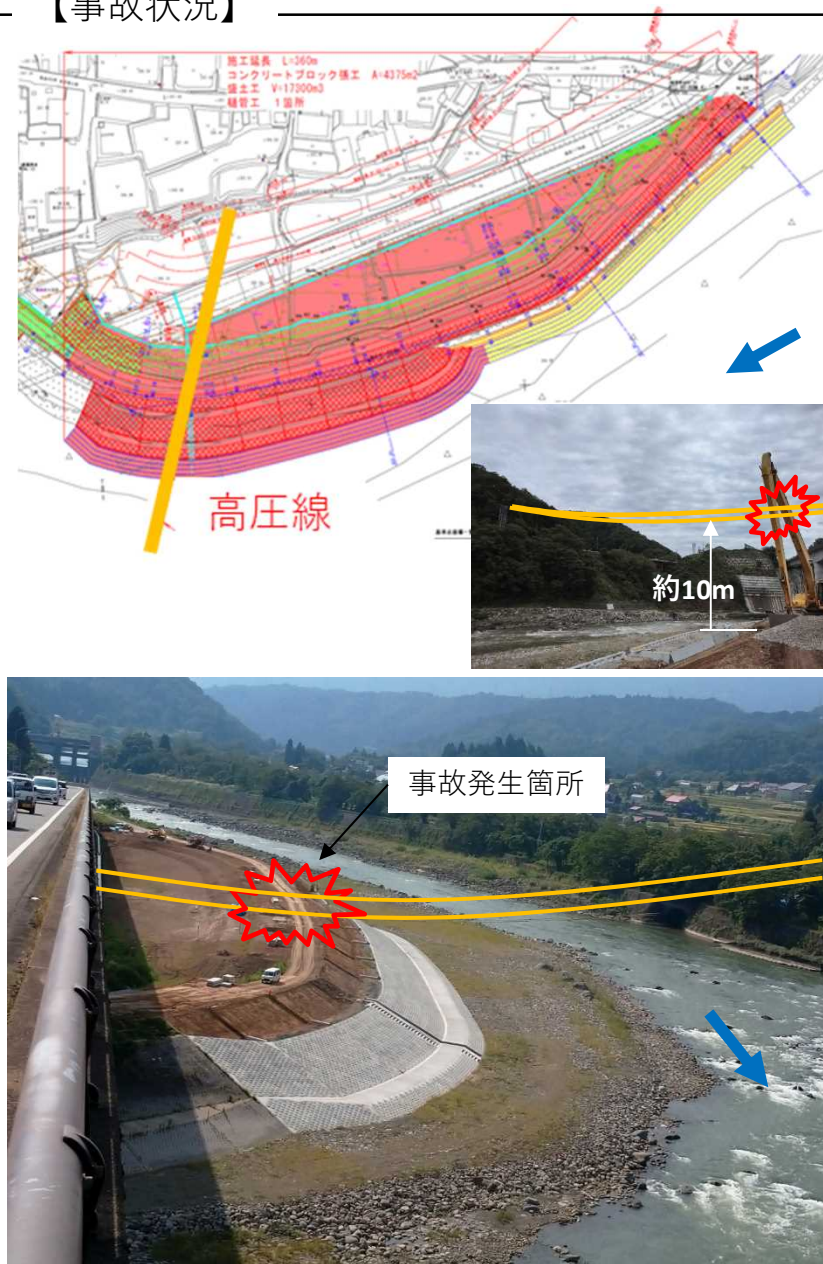
【事故原因】

通常時は監視員を配置し、アームを下げた状態で電線下を通過していたが、事故発生時は監視員が不在で、アームを立てていることに気づかず電線下を通過したため、アームが電線に接触し、切断。

【再発防止策】

- ・ クレーン作業時は監視員の配置を徹底。
- ・ 使用重機（ロングアーム）の確認。
- ・ 注意喚起の徹底。

【事故状況】



令和4年度 災害復旧事業における工事事故事例

【発生日時】

令和4年10月26日 17:10頃

【工事概要】

施工延長826m 鋼矢板圧入700枚 笠コン621m
特殊堤235m 石積159m²

【事故内容】（被災状況・被災者数）

バックホウで施工ヤードの構築作業を行っていたところ、アームが電柱の支線に接触し切断、その反動で電柱が半分から折れ、一般住宅敷地内倉庫の屋根を破壊したものの。（停電等無し）

【事故原因】

重機使用にあたり、架空線に対する注意喚起表示の設置や誘導員及び監視員の配置等を怠り作業を行った。

【再発防止策】

- ・ 電柱等施工範囲近傍にある場合には、運転手以外に合図員等を設け事故防止に努め、現場に注意喚起表示板の設置及びKY活動等で全作業員に周知・徹底を図る。

【事故状況】



令和4年度 災害復旧事業における工事事故事例

【発生日時】

令和4(2022)年12月5日(月) 8:20頃

【工事概要】

クレーン付バックホウが、旋回したところ、作業員1名がバックホウと、コンクリート製品の間に挟まれた。

【事故内容】 (被災状況・被災者数)

1名(作業員)：死亡

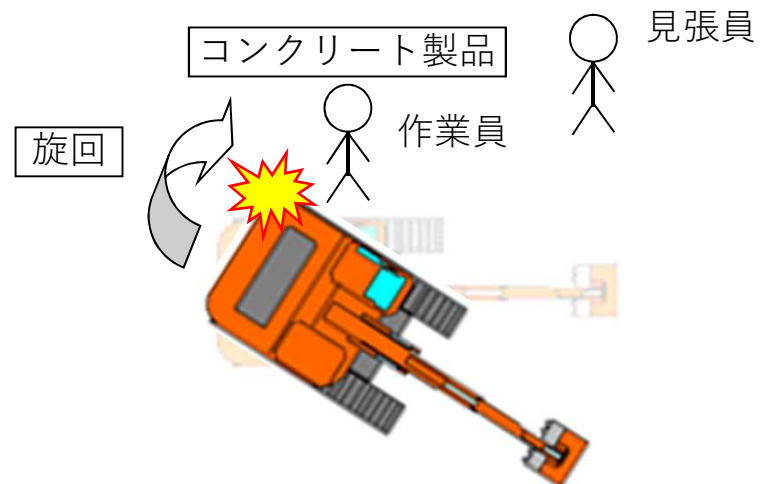
【事故原因】

- ①作業効率を求め、作業スペースが狭くなっていた。
- ②狭隘な高水敷作業にあたり、人感センサーを解除したが、その旨の周知がされていなかった。
- ③誘導等の専任の人員を配置していなかった。
- ④重機オペレーターが周囲を確認しなかったため。
- ⑤作業員が旋回範囲内に入るとき、オペレーターに合図を送らなかったため。

【再発防止策】

- ①使用重機を小旋回型へ変更し、重機に重機安全プレート装着する。また、重機接近警報システムを導入し作業半径範囲に作業員が侵入したことをオペレータ等に警報にて伝えることでヒューマンエラーを未然に防ぐ。
- ②現場作業に従事しない専任の誘導員(監視員)を配置する。
- ③重機の作業半径内へ作業員が入る場合の誘導員の指示や相互の声かけ等の徹底。

【事故状況】



令和4年度 災害復旧事業における工事事故事例

【発生日時】

令和4年12月6日 8:06頃

【工事概要】 河川災害復旧（河川土工）

施工延長 L = 600m

掘削工 V = 33,270m³

【事故内容】

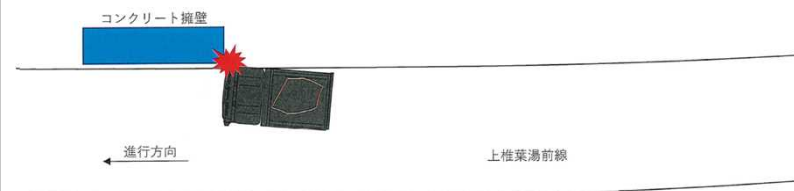
- ・現場から土捨場へ土砂運搬中、ダンプ運転手が意識を失い、道路右側（山側）法面に衝突した。
- ・他車巻き込み等なし。
- ・ダンプ運転手が緊急搬送され、死亡が確認された。

【事故原因】 ・ダンプ運転手の病死
（内因性心臓死）

【再発防止策】

・新規入場者問診票に病歴等を詳細に記入させるとともに、本人からの了承を得たうえで、産業医からも情報を入手する。また、朝礼時に異常と判断した場合は現場への入場を禁止する。

【事故状況】



令和4年度 災害復旧事業における工事事故事例

【発生日時】

令和4年12月29日 8:20頃

【工事概要】

施工延長 37.5m

補強土壁488m²、舗装工276m²、盛土6,790m³、
植生工1,170m²、工用道路102m

【事故内容】（被災状況・被災者数）

バックホウで仮設道路を走行していたところ、
誤って路外がけ下へ転落し、運転手1名が意識不明
の重体となった。その後、集中治療室での治療を
継続していたが、多臓不全のため死亡した。

1名（運転手）：死亡

【事故原因】

運転手の誤操作

【再発防止策】

- ・ 仮設道路の路肩が視認しやすいよう、路肩にロープを設置する。
- ・ 作業員の事故防止への意識を徹底するよう、安全訓練等を強化する。

【事故状況】

